

令和４年度 県立下妻第二高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
学習習慣の確立が図られておらず、そのため生徒の思考力・判断力・表現力、知識・理解度ともに十分に育っていない。知への喜びを感じられる授業を展開することで学力の向上を図りたい。 大学等への進学希望者数は多いが、意欲が持続せず、安易な進路選択をしてしまう例も少なくない。学年と教科の連携を図り、きめ細やかな面接指導に加え、総合的な学習の時間やHRで進路意識の高揚をはかるなど、３年間を見通した組織的・計画的なキャリア形成に努める必要がある。 交通安全や情報モラル等に関する一層の意識喚起が望まれる。また、社会適応が苦手な、高校生活に溶けこめない生徒も見られることから、スクールカウンセラーとの連携、校内研修等により心のケアが必要な生徒への対応力を拡張させる必要がある。 運動部・文化部とも活動は活発で高い実績を上げているが、各部の指導者の永続的な確保と、安全教育の充実が必要である。また、計画的なHR活動の展開及びキャリアパスポート等の活用によりキャリア意識の高揚を図る必要がある。 海外語学研修の充実、ALTとの連携による指導など、ネイティブの英語に触れる機会を積極的に設けることで、生徒の語学への関心を高めるとともに、主体的に実践しようとする力を身に付けさせたい。 学校HPの充実、各種広報紙、緊急情報メール等で保護者や地域住民への情報発信を充実させ、地域行政や市民団体等と積極的に関わり、生徒の「考える場・活動する場・感動する場」の拡張を図る。「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践や進路指導への対応などにより、教職員の時間外在校時間が多い状態である。授業改善を推進しつつ、時間外在校時間の縮減や持ち帰り業務の削減を図るため、より効果的な業務を目指した改善策の提案と実現を図る必要である。	○主体的学習態度の確立	①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を推進し、ICT等も活用しながら、個々の生徒に応じた指導法の改善とサポート体制の充実を図る。 ②授業第一主義の下、集中した授業を展開するとともに、自主性・主体性を大切にした学習習慣の定着を図ることで、進路実現に対応した思考力・判断力・表現力、知識・理解力を身に付けさせる。	B
	○より高い進路希望の実現	③より高い目標を実現するため、課外授業や模擬テスト等の有効活用と充実を図り、最後まで自分の目標をあきらめさせない。 ④キャリアパスポート等の活用によりキャリア教育を充実し、生徒の資質・能力の向上を図り、社会に貢献できる人材育成のため、大学進学を推進する。	B
	○個人指導（面談）の充実	⑤面談を通して、個々の生徒理解と保護者との共通理解を図る。	B
	○豊かでたくましい責任ある人間性の育成	⑥部活動加入を推進し、豊かな人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成充実を図る。 ⑦基本的な生活習慣及びマナーを身に付けさせるとともに、「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、道徳や道徳プラスを通した心の教育や健康教育の充実を図る。 ⑧学校行事や生徒会活動を通し、生徒一人一人が主人公となって活躍できる活動を充実させる。	B
	○国際理解教育の推進	⑨海外語学研修等を推進し、自国・異国の文化と国際平和理解を深める。 ⑩海外生活体験者や外国人の活用、ALTの積極的活用を通して、国際理解を推進するとともに、積極的に英語を使う機会を設ける。	B
	○情報発信の充実と地域との連携	⑪ホームページや学校通信、メディアを通して、学校の取り組みや生徒の活動を地域社会や近隣中学校に広く発信し、学校理解を促し、地域や中学校との連携を深める。 ⑫ボランティア活動等を通して地域との交流を推進し、家庭・学校・地域が一体となって、生徒を支援し育成できる環境づくりを構築する。	B
	○効果的な教育活動の推進	⑬持続可能な学校教育を展開するために、時間外在校時間の縮減、持ち帰り業務の削減等の働き方改革を推進する。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)		「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①文武両道を目指し、知・徳・体のバランスが整った人材 ②国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる人材 ③地域の核となる人間性豊かな人材	B		コロナ下においても、工夫により可能な限り学校行事を実施することにより、人材の育成を図る。
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒の学習意欲を高める教科指導法の研究と改善を図り、学力の向上を目指す。 ②大学進学を推進し、国公立大学 20 名以上合格と難関私立大学合格者増を図るため、進路指導の充実を目指す。 ③県西地区の運動部・文化部の中心校として部活動の活性化を図り、各種大会での活躍を目指す。 ④道徳教育やシチズンシップ教育の充実によって、責任ある心豊かな人材を育成し、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。	B		I C Tを取り入れた教科指導法の研究改善や、キャリア教育を進め、より高い意識を醸成する。また、成果を上げている探究活動や部活動を継続する。
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ②地域から世界のことまで、広く興味・関心をもっている生徒 ③生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒	B		学校公開やホームページ等の広報活動を積極的に進める。
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	進路実現に向けた国語力の伸長	家庭学習の定着を図るための工夫をする。タブレット等を使つての学習に習熟させる。①②④	B	B	タブレット等、I C Tを活用した授業研修に努める。 生徒の主体的な探究活動と言語活動を充実させた授業実践に努める。 小論文指導は添削指導を含め、学年と連携しながら今後も継続的に実施していく。
			漢字、古文単語の小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。①②	A		
			新傾向の入試や外部模試に対応した授業を行う。②③⑤	A		
		授業の創意工夫	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践と個々の生徒に応じた指導法を工夫する。①②③④⑤	B		
			ICTを活用し、効果的な授業を工夫する。①②③	B		
			授業の中で図書紹介をする等、読書指導を行い、本に親しませる。①⑦	B		
			進路希望に応じた小論文指導を行う。①②④⑦⑧	A		
	地歴公民	基礎学力の向上	教科書の熟読、音読の徹底をさせる。①②	B	B	・提出物を定期的に課して、考查だけに限らない多角的な評価をする。 ・単元ごとの小テストを充実させ、知識の定着を図る。 ・ペアワークやグループワークなど言語活動を取り入れ、知識をアウトプットできる授業環境を作り出す。
			板書項目を書き写しているか定期的にノートをチェックする。①②⑤	B		
			小テストなどで、知識の定着を図る。②③	B		
		受験対応能力の養成	小テストなどの問題演習を数多くさせる。②③⑤	A		
			入学試験や模擬試験の問題のパターンなどの説明を必ず入れる。③④	A		
			問題演習の時間を確保する。③④⑤	A		
		授業の創意工夫	話し合いや、意見交換の時間を設け、多様な価値観に触れる機会を作る①②	B		
			現代の社会と授業が乖離しないよう、時事問題を多く扱う。①②	B		
			インターネットや映像教材を授業に取り入れる努力をする。①②③	B		
		数学	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行う。①②		
	小テスト等を利用し、理解度の把握を行う。家庭学習量の増加を促す。②③			B		
	進路実現に向けた学力の育成		授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②③④	B		
			新学習指導要領に向けた学習指導の研究。②③	B		

	理科	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行う。①②	B	B	・発展問題に対応することが難しいため、基礎基本の徹底を図る。
			実験を多く取り入れ、授業の創意工夫に努めた授業を行う。①②③	B		
		進路実現に向けた学力育成	授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②③④	B		
			科学的思考力、表現力、判断力を養い、科学リテラシーを身に付けさせる。②③④	B		
	保健体育	授業に取り組む望ましい態度の育成	授業開始までに集合整列を行い、協力して準備や後片付けができるようにする。②⑦	A	B	・集合、整列、服装などの今後 も徹底していきたい。 ・運動技能の向上のためにクロムブックを活用する。 ・球技においてはリーグ戦を行い、技術レベルに合わせたゲームを楽しみながら行うことができた。ゲームの質の向上のため、各種目のルールについても詳しく学ばせていきたい。
			運動にふさわしい身だしなみを整え、授業に臨む態度の育成を促す。⑦	A		
		各種目の正しい知識と技能の習得	基礎的な運動技能を習得させると共に学び方や高め方を理解させ実践できるようにする。①⑨	B		
			技術レベルにあわせた簡易ゲームができるようにする。①②	B		
	芸術	創造的な表現力の育成	意欲的に工夫する能力、自己表現する能力を育成する。①②	A	B	・学習指導要領を踏まえ指導と評価の一体化を目指す。また、ICTを活用した授業を実践する。
		鑑賞力の育成	主体的、能動的に芸術を鑑賞する態度を育成する。①②	B		
	英語	基礎力の定着	英単語テストや文法語法テスト、各種課題等を通して、語彙力の増強や基礎力の定着を図る。②③	A	B	・観点別評価を試行錯誤しながら実施。 教科内での共有と改善が課題 ・ICT活用の研修の推進 ・情報や考えなどを的確に理解しながら、英文を読む力の定着 ・効果的な課題の出し方の研究
			生徒の学習意欲を高めさせ、家庭学習時間の確保と民間試験(GTEC、英検等)の受験促進に努める。①③	B		
		授業の創意工夫	教員間での情報交換を通して、教材研究を深め、わかりやすい授業の創意工夫に努める。①②③	B		
			新課程の「英語で行う授業」の実践に努める。①②⑩	B		
		A L T の活用	ALT を活用して、異文化理解に努め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を育成する。⑨⑩	A		
	家庭	基礎的・基本的技術の習得	基礎的基本的知識と技術を身につけ、実生活に生かすための実験実習など体験的授業の充実を図る。①②	B	B	感染症対策をふまえた衛生管理を継続しながら、コロナ禍での実習時間を確保していく。 ICT を活用した授業実践をよりよくしていく。
		主体的学習態度の育成	自らの生活に関心を持ち主体的に営む力を養うため、授業内容や教材の工夫を図る。①②	B		
	情報	状況に応じたコミュニケーション力の育成	情報通信ネットワーク社会においてコミュニケーションの体系が変化していることを理解し、状況に応じたコミュニケーションを行えるようにする。①②	B	A	情報 I へのスムーズな移行
		インターネット社会に適応するための技術や情報モラル	インターネットを含めた社会問題の具体的な事例を学び、問題が起きた時の解決方法や、犯罪に巻き込まれないための知識を学ばせる。①②	A		
		情報の検索・判断・組み合わせ・表現力の育成	プロジェクト学習を通して、情報を活用しながら自分の考えや意見をまとめ、各自でプログラミング、プレゼンテーションを行い、著作権を考慮しながら情報発信者として必要なスキルを学ばせる。①②	A		

		問題解決力の育成	将来のために解決しなければならない問題点を考えさせ、解決するために必要な知識を学習し、今後に活用させる。①②	B		
--	--	----------	--	---	--	--

教務	学力向上のための支援	学年・教科との連携を図り、学校行事を適切に計画実施するように努める。②④⑧	A	B	・学校の HP や学校説明会の動画等は、中学校の方がより高いレベルの内容で作成されているようなので、さらに力を入れていきたい。 ・広報活動を充実させる。 ・今年度から始まった観点別評価について、適正な評価になるよう各教科と連携していく。
		定期考査の円滑な実施を図り、授業の充実や適正な評価に結びつくように努める。①②⑤	B		
		シラバスの活用を促進し、指導と評価が明確になるように努める。①②⑤	B		
		ICT の活用等、授業の充実・改善に向けて研修の機会を設け、教員の共通理解を図る。①②	B		
	教育課程の研究	新学習指導要領、高大接続改革などを勘案し、教育課程を編成する。②④⑦	B		
		生徒の多様な進路実現に向けて、指導計画の確立を目指す。①②④	B		
		総合的な探究の時間や道徳の運営が適切に行われるよう努める。④⑦	B		
	地域・中学校などへの広報活動の充実	分かりやすい学校案内の作成に努める。⑪⑫	A		
		学校の特徴が表現できるような学校説明会や学校公開の実施方法の改善に努める。⑨⑪⑫	A		
		学校ホームページを積極的に活用していく。⑪⑫	B		
生徒指導	服装・頭髪指導の徹底	毎月、頭髪服装検査を実施し、自らの服装・容儀について考えるよう呼びかける。⑤⑦⑫	B	B	・アルバイトや服装等の規則を明確による、学年間の差の解消 ・交通事故を起こさないための指導 ・ヘルメット着用努力義務を生徒に周知
	交通安全の徹底	交通安全講話会やバイク講習会等を実施し、交通法規やマナーの遵守を呼びかける。⑤⑦⑫	B		
進路指導	望ましい進路選択の支援 進路実現のための支援 進路実績の伸長を目指す	広く社会に目を向けさせ、生徒の能力に応じた進路に対する意識づけを促す。①④⑤⑥	B	B	・コロナ関係で大学見学等の行事がいまだ難しい中、学年中心に生徒の進路実現につながるような進路学習をしていた。 ・学習意欲の向上と課外への参加率の増加を図る。 ・進路情報を生徒や保護者に発信し、悔いのない進路選択を考えてもらう。
		生徒が自ら意欲的に行う家庭学習時間の確保増加をするための検討を行う。②③⑩	B		
		自己の人生設計から考えて、より高い進路目標を具現化するための支援を行う。④⑤⑥	B		
		現状に応じた的確な進路情報の提示を行うとともに家庭とも情報を共有する。③⑤	B		
		生徒の状態を敏感に感じ取り効果的で計画的な面接指導のあり方の検討を行う。⑤⑥	B		
特別活動	学校行事を通し、自主性・協調性の涵養を図る。	生徒会や委員会が主体となり、全生徒が生き生きと活動する行事の企画運営をする。⑦⑧⑨⑩	B	B	・全校生徒が生徒会活動に関心を持てるようにリードする。 ・全校一丸となった学校行事となるよう工夫する。 ・ボランティア活動に対する関心が高まるように啓発する。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、学校行事を円滑に運営出来るようにする。
		クラスマッチや文化祭などの行事で生徒の係分担などを明確にして、責任感を持たせるとともに全員が協力する意識を高揚させる。⑧⑨⑩	B		
	部活動の充実を図る。	生徒の自発的活動を支援する体制を整備する。⑥⑦⑧	B		
	心の教育の充実を図る。	文化部の活動を充実させ、活動内容の発信をする。⑦⑧⑪	B		
		生徒会が中心となり部活動やHRをリードし、ボランティア活動や募金活動などに取り組めるようにする。⑦⑧	B		
		計画的な HR 活動の展開及びキャリアパスポート等の活用によりキャリア意識の高揚を図る。④⑦⑧	B		

保健厚生	自主的に健康の保持増進に努める態度の育成を図る。	保健だよりや保健指導を通して、健康の保持増進に関する情報提供を積極的に行う。⑬	B	A	新型コロナウイルスの影響で防災避難訓練が今年度も実施できなかった。次年度は実施の方向で進めたい。 今年度同様に行事等を開催していきたい。 心の不調を訴える生徒が増えてきているので、生徒からのサインを見逃さないようにする。
		心身の健康に問題のある生徒には、個別相談活動を積極的に行う。⑤	A		
		性に関する講演会を実施する。⑧	A		
	教育相談の充実	生徒が利用しやすい相談室になるよう整備する。⑤	B		
		相談活動が計画的に実施できるよう努める。⑤	B		
	清潔な教育環境確保と安全の確保に努める。	生徒会や環境美化委員会と連携をとり、校舎内外の清掃美化活動を定期的に実施する。⑧⑪⑫	B		
防災避難訓練を通して、防火防災の意識を高揚させる。⑫		A			
生徒の救命講習会を実施する。⑧⑪⑫		A			
図書	図書館利用を活性化させる	購入希望調査やリクエスト等により生徒の興味関心に沿った図書の購入に努めると共に、主体的で深い学びにつながる環境を整える。①④⑦⑧	B	B	感染予防のための換気や消毒を継続しつつ、季節行事や各種イベントを企画し、図書委員会活動の活性化を図っていく。感想文・感想画の他、POPコンテストや書店企画へも積極的に参加する。今後は、生徒の主体的な学びにつながる環境を整える必要がある。
		図書委員を活動させ、推薦図書の紹介や図書館内のレイアウトを工夫する。⑧	A		
		図書館内の美化やマナー向上を図り、利用しやすい環境をつくる。⑧	B		
	読書の推進を図る	校内読書週間(年3回)を設けて、生徒の読書意識を高める。⑦⑧	A		
		図書だより(新着図書案内込み)、図書館報(年1回)を発行する。⑧	A		
渉外	PTA行事への保護者の参加率を向上させる。	PTA総会、支部総会を同日に実施する。⑤	B	B	PTA組織の抜本的な改革をさらに熟考し、進めていく。 学校とPTAと地域との連携を深め、地域に根ざした活動を模索していく。
		PTA役員及び評議員会の円滑な運営並びに研修活動の推進をする。⑫	B		
		学校行事等においては、保護者の参加要望が高まる内容のものを検討する。⑪	B		
	広報活動を通じて、保護者の学校理解を深める。	会報を充実し、学校及び生徒の活動、成果をわかりやすく保護者に伝える工夫をする。⑪	A		
		地域との連携を密にし、PTAと生徒が協働する活動を促進する。⑫	B		
教育情報	校内ネットワークの管理	校務用端末及びサーバの維持管理に努める。⑬	B	A	体育館、同芳会館を含めた全棟へのWi-Fi設置
		無線LANを有効活用し、教育用および生徒用端末を有効利用できるように整備する。①②⑧	A		
		リモート会議等、円滑にオンライン活用ができるよう、校内研修および機器整備に努める。⑬	A		
		校内ファイルサーバの活用とファイル保全を図る。⑬	B		
	情報セキュリティ対策	ウィルス感染防止を常に心がけ、教職員および生徒向けにセキュリティやICT活用に関する内容を随時伝達する。①⑬	A		
	学校ホームページの運用	学校ホームページを計画的に運用し、内容をより充実させ、広報活動に努める。⑪	A		
		緊急メール配信が遅滞なく活用できるように支援する。⑪	A		
	視聴覚教育の充実	教育情報委員会の活動を活発化させ、視聴覚教育が効果的に実施されるよう環境を整備する。①②④⑦⑧	B		
	情報処理の円滑化	成績処理諸帳簿などの処理において、関係する部との連携を図る。⑬	A		
		「教務支援システム」でのデータ処理管理が円滑に行えるように努める。⑬	A		

第一学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間を守る、整理整頓の三点を重点的に指導する。⑦	B	B	・服装容儀や礼儀等を継続的に指導する。 ・進路希望実現に向けての意識を向上させ、そのための学習指導を充実させる。
		安易に欠席、遅刻、早退をさせない指導をし、皆勤の価値を周知させる。⑦	B		
		服装容儀や礼儀等、高校生らしい姿を徹底して指導する。⑦	B		
		LHRや総合的な探究の時間等を通して心の教育に係わり、自発的な規律意識を高める。学校行事等で活躍できる活動を充実させる。⑦⑧	A		
	基礎学力の定着	授業を大切に、予習復習家庭学習の習慣を義務づけ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		各教科に進学を意識した授業を要請し、基礎学力の定着と問題解決能力の向上を図る。①③	B		
	進路意識の向上	LHRや進路行事を通して的確な進路情報の提示を行い、早期の進路希望決定、目標の設定を促す。④	B		
		個別面談を通して、生徒や保護者との連携を密にし、学習意欲や進路意識の向上を図る。⑤	A		
第二学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間厳守、整理整頓の三点を継続的に指導する。⑦	A	B	・進路希望実現に向けての意識向上と個々の進路目標に応じた学習指導の充実を図る。 ・授業を大切に、生徒の主体的、継続的な学習習慣の定着を図り、学力の向上を目指す。 ・保護者との連携を図りながら個に応じたきめ細やかな面接指導をする。 ・多様な進路希望に対応できるよう指導体制を構築する。
		欠席、遅刻、早退が多い生徒への早期対応をする。⑦	A		
		服装容儀等、高校生として規律正しい生活を指導する。⑦	B		
		授業・LHR・学年集会等を通して心の教育に係わり、振り返りをさせることにより、生徒の主体性を高める。①⑧	B		
	学力の向上	授業を大切に、家庭での予習・復習を習慣化させ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		始業前の学習・定期考査・課題テスト・小テスト・模擬試験等に対して主体的・継続的な学習の実践を促進し、学力の向上を図る。②③	B		
	進路意識の向上	LHR・集会・講演会等を通して、的確な進路情報の提示を行い、早期の進路決定・自己目標の設定を促す。②③④	B		
		個別面談や保護者面談を通して生徒や保護者との連携を密にし、模擬試験・スタディーサポート等を通して進路目標を明確にさせ、進路意識の高揚を図る。③④⑤	B		
		オープンキャンパスや進路説明会等への積極的な参加を促し、進路実現に対する意識を高める。④⑤	B		
第三学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間厳守、整理整頓の三点を継続的に指導する。⑦	A	B	・高い進路目標を設定 ・自主的な学習態度を確立させ、希望進路実現に結びつける ・多岐にわたる進路希望実現の為の教員間の連携 ・進路決定者の事後指導体制を構築する
		LHR・学年集会・等を通して心の教育に係わり、振り返りをさせることにより、生徒の主体性を高める。また、規範意識を高める。⑦⑧	A		
		進路実現に向けて規律ある生活と努力を続ける姿勢を保つように指導する。⑦	A		
	進路希望実現に向けての学力の向上と定着	授業を大切に、家庭での予習・復習を習慣化させ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		進路に対して高い目標を掲げ、課外活動や模擬試験等への主体的・積極的な取り組みを促進する。また、家庭学習時間の増加を図る。②③	B		
		放課後や土曜、長期休業中の課外を行い、さらに学力の伸長に努める。③	A		
		定期考査、小テスト等で基礎学力を育成するとともに、授業で演習・外部模試等を積極的に活用し、受験に対応した学力を身につけられるように指導する。②③	B		
	進路希望実現	欠席、遅刻、早退が多い生徒への早期対応をする。⑦	A		
		面談・LHR・学年集会・学習活動等を通して、進路実現に対応した知識・理解力・思考力・判断力・表現力を高める指導をし、適性にあった進学・就職を経て社会に貢献できる人材の育成を目指す。②④⑤	A		
		服装容儀等、高校生として規律正しい生活を指導する。⑦	B		
		最高学年としての自覚を高め、責任ある態度や公共心協調性の育成に努める。⑦	B		

※評価基準 A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：努力を要する